

環境活動レポート

(2009年版ea21ガイドライン対応)



「きれいだね、きれいにしているね」
をモットーに

「環境に優しいものづくり」
を推進します



本社工場

瀬戸日の出工場



瀬戸日の出第2工場



【2013年度版】

対象期間 (2013年5月~2014年4月)

作成日 2014年5月30日

改訂日 2014年6月24日



株式会社 **カワサキ**

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	P1~P2
2. 実施体制及び対象範囲	P3
3. 環境方針	P4
4. 環境目標	P5
5. 環境活動計画	P6
6. 環境目標に対する実績	P7~P9
7. 環境活動取組結果の評価と次年度の取組内容	P10~P13
8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無	P14
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P14

1. 組織の概要

(1) 会社名及び代表者

株式会社 カワサキ
代表取締役 川崎 智之

(2) 所在地

本社及び本社工場 名古屋市昭和区福江二丁目7番23号
瀬戸日の出工場 瀬戸市日の出町28番地
瀬戸日の出第2工場 瀬戸市日の出町30番地

(3) 会社概要

売上金 443百万円 (2013年度)
資本金 10百万円
事業年度 5月1日～4月30日
人員、規模等 (2014年5月1日現在)

	本社及び本社工場	瀬戸日の出工場	瀬戸日の出第2工場	合計
従業員数	16	41	(検討中)	57
(内パート等)	0	5	(検討中)	5
敷地面積	591.5㎡	2141.87㎡	1392.22㎡	4125.59㎡

主要取引先

リンナイ株式会社、リンナイ株式会社 関連各社 他 30社以上

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	(2011年1月～12月)	2012年度 基準値	2013年度
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂)	電力、都市ガス、 ガソリン	711327	821305	882456
廃棄物排出量(t)	最終処分量	30.31	47.69	39.06
水資源(㎡)	水道水	5730	5753	7624
化学物質使用量(kg)	塗料、溶剤	13033	15854	21271

注) 事業年度 5月～翌年4月

※ CO₂排出係数：電力 0.474kg-CO₂/kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/㎡

(4) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 QE推進監査室 管理責任者 各務 鋼

連絡先

本社工場 TEL 052-881-9223 FAX 052-881-9291
瀬戸日の出工場 TEL 0561-86-8886 FAX 0561-86-8889
e-mail : kakumu@kawasaki-paint.co.jp

(5) 沿革

創業 1956年1月(昭和31年)

設立 1974年10月1日(昭和49年)

2010年10月(平成22年)瀬戸日の出工場稼働

2012年7月(平成24年)エコアクション21認証取得

2012年12月(平成24年)瀬戸市「環境に優しい事業所」認証取得

2013年5月(平成25年)本社工場新塗装ライン稼働

2014年3月(平成26年)瀬戸日の出工場カラー電着ライン稼働

2014年6月(平成26年)日の出第2工場新塗装ライン稼働予定

(6) 事業内容

ガス器具部品、自動車部品、弱電部品、遊戯機等の金属塗装・プラスチック塗装
・カチオン電着塗装 ・静電塗装 ・アルミ素材への前処理及び電着塗装、吹付塗装
・各種溶剤吹付塗装 ・樹脂塗装 ・粉体塗装



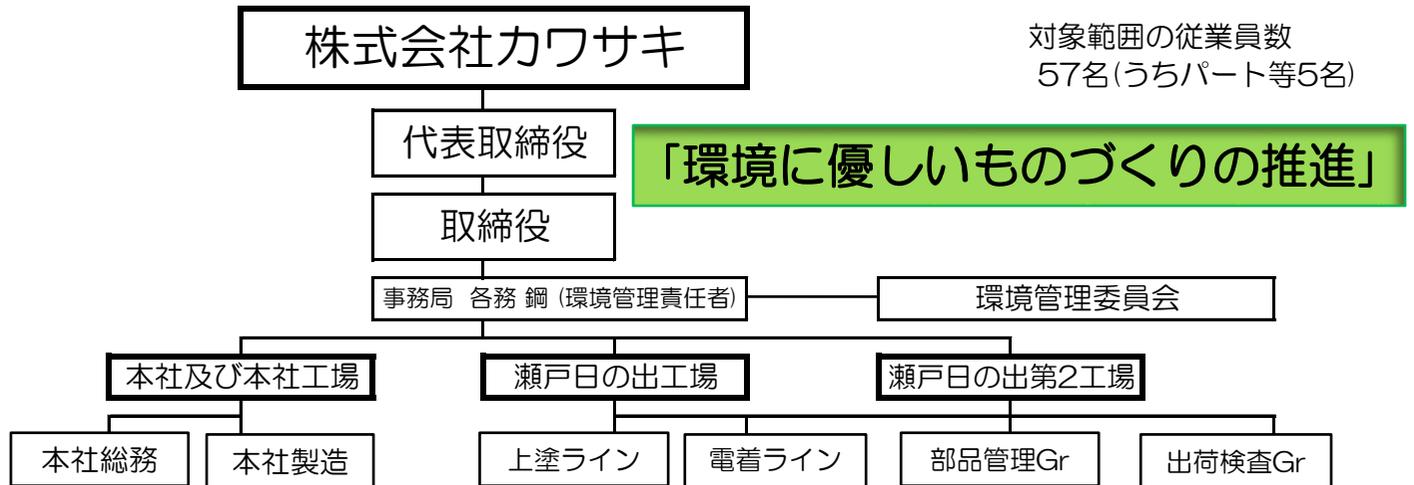
(当社の特長)

- ①カチオン電着ラインと静電塗装ラインが併設してあることにより同一工場内での下塗りから上塗りまでの一貫工程が可能となっています。従って、工程別に複数の業者に発注する必要がなくコスト削減、納期短縮が実現出来ます。
- ②新しく従来の溶剤塗装に加え粉体塗装ラインの導入により顧客の幅広いニーズへの対応が可能となりました金属製品のみならず美粧、耐久性向上、特殊機能付与等を目的とした。プラスチック素材への塗装も行っており、「塗装のオールラウンドプレイヤー」としての体制を確保しています

2. 実施体制及び対象範囲

(1) 環境マネジメント組織図

(2014年 5月現在)



対象範囲の従業員数
57名(うちパート等5名)

「環境に優しいものづくりの推進」

※チーフ以上の職位者は環境推進委員 ※瀬戸日の出第2工場は2014年度に拡大

(2) 職務権限

代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システム(EA21)の実施に必要な資源の確保と提供 環境管理責任者の任命 環境方針の策定、見直しを全従業員に周知 環境目標、環境活動計画の承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
事務局 (環境管理責任者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システム(EA21)の構築、実施、管理、維持 環境経営システム(EA21)の実施状況及び改善の必要性の有無を代表者に報告 環境関連法規制等の遵守確認 環境活動レポートの作成 環境管理委員会の開催 環境経営システム(EA21)に係る手順書の作成 環境経営システム(EA21)の運用、維持に係る各部門への支援
環境管理委員会 (情報交換会議)	<ul style="list-style-type: none"> 環境目的、環境目標の策定 環境管理責任者の業務を補佐し、環境管理活動を展開する 環境管理活動の展開を図る為、重要課題について対応策を検討し展開する
環境推進委員 (各部門のチーフ以上)	<ul style="list-style-type: none"> 各部門における環境経営システム(EA21)の実施、運用 各部門における環境方針の周知と教育を推進 環境活動計画の実施及び状況を環境管理委員に報告 自部門の環境管理の実施、点検及び是正の指示を行う
	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の実施及び状況を環境管理委員に報告 決められた手順と担当業務に適用される法規制・要求事項を遵守する

(3) 後発事象

当期活動期間終了後、瀬戸日の出第2工場(粉体塗装ライン)を増設し、2014年6月より稼働予定です。

(4) 環境活動レポートの対象範囲

- ①今年度、本社・本社工場及び瀬戸日の出工場を対象とし活動期間は 2013年5月1日～2014年4月30日です
 - ・事業活動：金属及び樹脂部品の溶剤塗装及びカチオン電着塗装
- ②次年度は2014年5月1日～2015年4月30日までを対象とし、同年5月末までに作成する予定です
瀬戸日の出第2工場は2014年度より対象範囲に追加・拡大致します

3. 環境方針

株式会社 カワサキ 環境方針

基本理念

私たち株式会社カワサキは、事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献出来る活動を通じて地球温暖化への対応や資源の有効利用に向けて全員で取り組み、環境に優しいものづくりの推進により地球環境との調和と保全を図ってまいります。

基本方針

- ① 環境保全に対する目標・活動計画を定め推進し、見直しを行うことにより環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ② 当社の事業活動に適用される環境に関する法的要求事項及び協定等を遵守します。
- ③ 地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量ならびに水使用量の削減、廃棄物の排出量削減及びリサイクルについて目標を定め取り組みます。
- ④ 化学物質の効率的な利用により使用量の削減に努めます。
- ⑤ 環境保全や省資源に配慮した製品の購入に心掛けます。
- ⑥ 全従業員が環境方針を周知し、環境に関する教育訓練を実施するとともに当社に関連する全ての人が見覧出来る様に開示します。

制定日 2012年1月6日



株式会社 **カワサキ**

代表取締役 川崎 智之



4. 環境目標

※基準値を設定した2011年1月～12月の生産内容(生産品目・数量)と2012年度の状況が大きく変動しており、(基準値に対する)評価として問題が生じました。(→多品種小ロットの受注が増えている)従って、2012年度の実績を基準として2013年度から、より実状に即した内容に改め環境活動を推進する事としました。

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
全社目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2327 1103	1%削減	基準値に対し毎年1%ずつ削減	
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	508 1021	1%削減		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	10.41 24.16	—		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2147.71	1%削減		
	水使用量の削減	m ³ /生産高	16.96	1%削減			
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	370	1%削減			
化学物質使用量の削減	kg/生産高	41.46	1%削減				
グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	購入品目の25%以上をグリーン購入			
本社及び本社工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2339 1109	1%削減	基準値に対し毎年1%ずつ削減	
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	205 122	1%削減		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	15.93 28.97	—		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	1259.54	1%削減		
	水使用量の削減	m ³ /生産高	6.17	1%削減			
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	580	1%削減			
化学物質使用量の削減	kg/生産高	56.50	1%削減				
グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	購入品目の25%以上をグリーン購入			
瀬戸日の出工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2325 1103	1%削減	基準値に対し毎年1%ずつ削減	
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	566 1021	1%削減		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	10.01 23.23	—		
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2319.34	1%削減		
	水使用量の削減	m ³ /生産高	19.05	1%削減			
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	330	1%削減			
化学物質使用量の削減	kg/生産高	38.55	1%削減				
グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	購入品目の25%以上をグリーン購入			

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) グリーン購入の環境効率指標：購入品目比率(%)

(注3) 基準値：2012年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.474kg-CO₂/ kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³

(注4) 瀬戸日の出第2工場については稼働前のため目標値は後日設定する。削減率は本社・工場及び瀬戸日の出工場と同率とする

5. 環境活動計画

環境目標を達成する為に、次の活動計画に取り組めます

【目標：電気使用量を基準値の1%削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ コッペラー等関係設備のエコ運転（能力設定をミニム化）
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28℃設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ⑦ 暖房温度20℃設定とウォームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量を基準値の1%削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の1%削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

【目標：廃棄物排出量を基準値の1%削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討（リサイクル出来る物を発掘）
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

【目標：化学物質使用量を基準値の1%削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業（洗浄・調合）内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

品質不良削減

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます

*「社会全体の環境負荷改善への貢献」として

【目標：グリーン購入の推進 全社で購入品目の25%以上を購入 指標： 購入品目比率】

- ① グリーン購入法適用商品の購入推進

品質不良削減を図りエネルギー使用量及び産業廃棄物排出量の削減を推進します

6. 環境目標に対する実績 (2013年度)

環境取組項目			環境効率指標	基準値	2013年5月～2014年4月			
					目標	実績	削減率 (対基準値)	評価
全社目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高	2327	1%削減	2164	6.98%削減	○
			(kg-CO ₂)/生産高	1103		1026		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	508	1%削減	462	7.54%削減	○
			(kg-CO ₂)/生産高	1021		944		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高	10.41	—	9.37	—	—
	(kg-CO ₂)/生産高		24.16	21.77				
	総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2147.71	1%削減	1991.69	7.26%削減	○	
	水使用量の削減	m ³ /生産高	16.96	1%削減	17.21	1.47%増加	×	
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	370	1%削減	330	10.81%削減	◎	
	化学物質使用量の削減	kg/生産高	41.46	1%削減	48.00	15.77%増加	×	
グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	41.80	167.2% (達成率)	◎		
本社及び 本社工場 目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高	2339	1%削減	2638	1.71%増加	×
			(kg-CO ₂)/生産高	1109		1128		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高	205	1%削減	125	25.41%削減	◎
			(kg-CO ₂)/生産高	122		91		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高	15.93	—	23.38	—	—
	(kg-CO ₂)/生産高		28.97	54.28				
	総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	1259.54	1%削減	1273.28	1.09%増加	×	
	水使用量の削減	m ³ /生産高	6.17	1%削減	6.22	0.81%増加	×	
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	580	1%削減	409	29.49%削減	◎	
	化学物質使用量の削減	kg/生産高	56.50	1%削減	57.89	2.46%増加	×	
グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	41.7	166.8% (達成率)	◎		
作成日 2014年 5月30日	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高			2205	9.07%削減	○
			(kg-CO ₂)/生産高	1102		1002		
		都市ガス使用量	kwh/生産高			2205	4.36%削減	○
			(kg-CO ₂)/生産高	1194		1142		
		ガソリン使用量	ℓ/生産高	10.01	—	10.01	—	—
	(kg-CO ₂)/生産高		23.23	14.24				
	総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2319.34	1%削減	2158.24	6.95%削減	○	
	水使用量の削減	m ³ /生産高	19.05	1%削減	21.16	11.08%増加	×	
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	330	1%削減	321	2.73%削減	○	
	化学物質使用量の削減	kg/生産高	38.55	1%削減	48.04	24.62%増加	×	
グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	41.9	167.6% (達成率)	◎		

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) グリーン購入の環境効率指標：購入品目比率(%)

(注3) 基準値：2012年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.474kg-CO₂/ kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³

(※評価の基準) ◎：削減率が10.0%以上⇒大幅に目標をクリア ○：削減率が1.0～10.0%未満⇒目標をクリア △：削減率が0.0～1.0%未満⇒ほぼ目標達成 ×：増加⇒目標未達	
---	--

本社工場の実績 2013年度 (2013年5月～2014年4月)

各目標の達成状況をグラフ化して掲示板に集中掲示
「達成状況の見える化」を図っています
 ※未達の目標について環境管理委員会議で内容の検証と対策についてフォローしています

グラフ [2013年度電力使用実績]

■ 2012年5～12年4月使用量
 ■ 2013年5～14年4月使用量
 ● 2013年度効果指標(実績)
 ○ 2013年度効果指標(目標)

4月度
 実績 11314
 予測・目標 11905
 評価 ○

※環境効率指標=電力使用量(kWh)/生産量(百万円)
 (kWh/万円) 当月 前月 評価
 環境効率指標 43.52 45.80 ○

●環境効率指標は今年度より売上変動を加味した数値になっている(毎月変動する)→当月目標を137%オーバー
 ※前月との比較
 売上 20.4%減
 電力消費 38.3%減
 ★電力消費量は2ヶタの減少で好結果である

●稼働時間より検証した電力需要予測
 3月稼働時間→4月稼働時間(35.1%減)
 3月電力消費×0.649=11905kWh
 ※需要予測より電力消費の実績が5%低減している

グラフ [2013年度ガス使用実績]

■ 2012年5～13年4月使用量
 ■ 2013年5～14年4月使用量
 ● 2013年度効果指標(実績)
 ○ 2013年度効果指標(目標)

4月度
 実績 530
 予測・目標 689
 評価 ○

※環境効率指標=ガス使用量(m³)/生産量(百万円)
 (m³) 当月 前月 評価
 環境効率指標 2.82 3.72 ○

●環境効率指標は今年度より売上変動を加味した数値になっている
 ※当月は目標に対し27.1%オーバー

●前月との比較
 売上 20.4%減
 ガス消費 37.8%減
 ※ガス消費が2ヶタの減少であり、改善されている

●稼働時間より検証したガス需要予測
 3月稼働時間→4月稼働時間(17.9%減)
 3月ガス消費×0.821=689m³
 ※需要予測よりガス消費実績が下回っている

グラフ [2013年度産廃排出量]

■ 2012年度
 ■ 2013年度

4月度
 実績 4
 予測・目標 5
 評価 ○

グラフ [2013年度グリーン購入法適用商品 購入実績]

■ 2012年度
 ■ 2013年度

4月度
 実績 0
 予測・目標 0
 評価 ○

グラフ [2013年度電力使用実績]

■ 2012年5～13年4月使用量
 ■ 2013年5～14年4月使用量
 ● 2013年度効果指標(実績)
 ○ 2013年度効果指標(目標)

4月度
 実績 11314
 予測・目標 11905
 評価 ○

※環境効率指標=電力使用量(kWh)/生産量(百万円)
 (kWh/万円) 当月 前月 評価
 環境効率指標 43.52 45.80 ○

●環境効率指標は今年度より売上変動を加味した数値になっている(毎月変動する)→当月目標を137%オーバー
 ※前月との比較
 売上 20.4%減
 電力消費 38.3%減
 ★電力消費量は2ヶタの減少で好結果である

●稼働時間より検証した電力需要予測
 3月稼働時間→4月稼働時間(35.1%減)
 3月電力消費×0.649=11905kWh
 ※需要予測より電力消費の実績が5%低減している

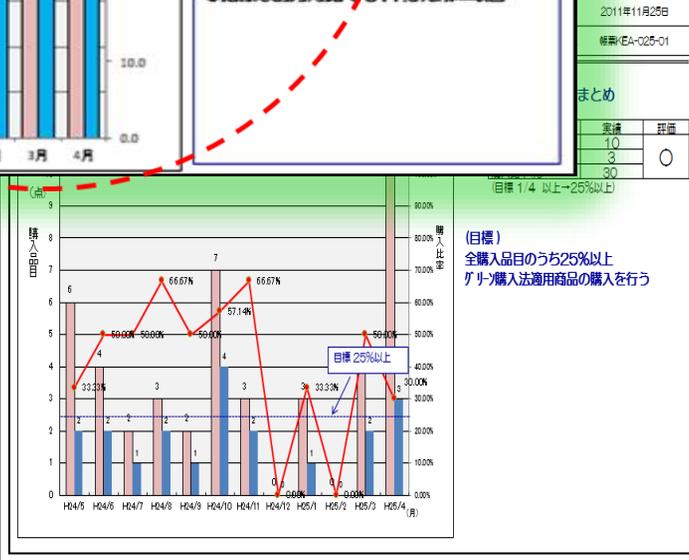
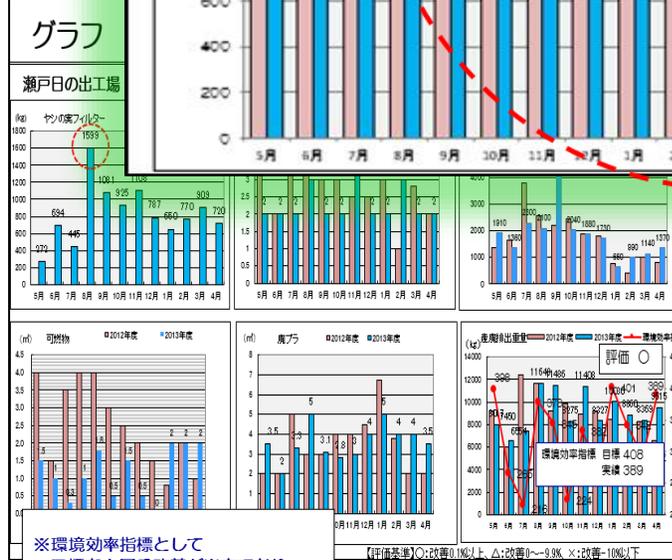
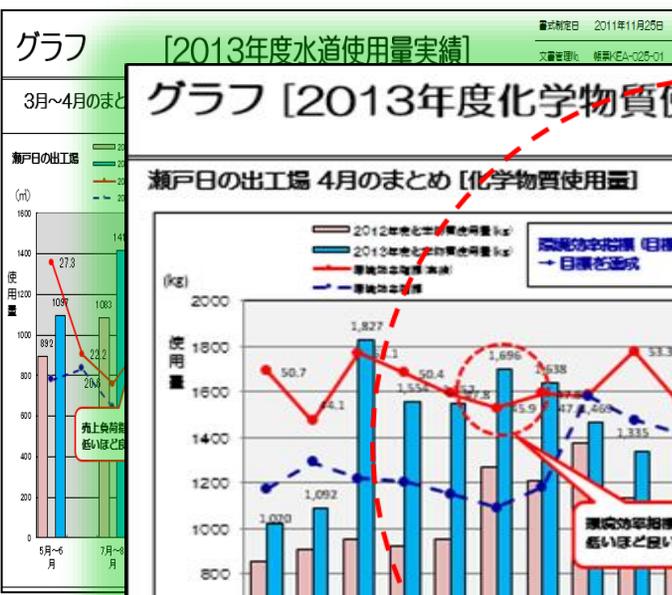
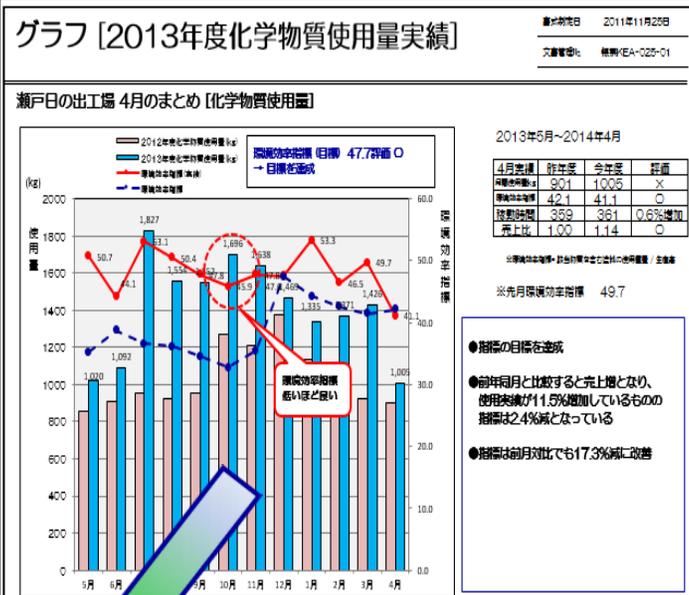
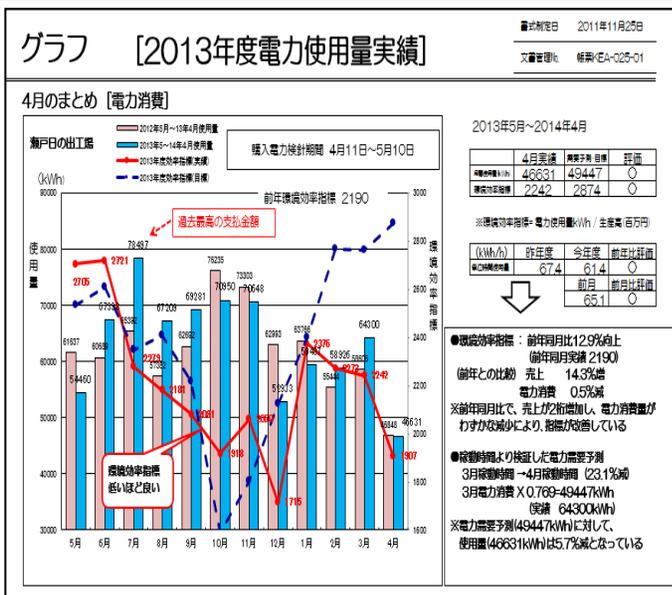
グラフ [2013年度産廃排出量]

■ 2012年度
 ■ 2013年度

4月度
 実績 4
 予測・目標 5
 評価 ○

瀬戸日の出工場の実績 2013年度 (2013年5月～2014年4月)

各目標の達成状況をグラフ化して掲示板に集中掲示
「達成状況の見える化」を図っています
※未達の目標について環境管理委員会議で内容の検証と対策についてフォローしています



7. 環境活動取組結果の評価と次年度の取組内容

(1) 取組結果の評価 2013年度(2013年5月～2014年4月)

① 本社工場

※基準値を設定した2011年1月～12月の生産内容(生產品目・数量)と今年度の状況が大きく変動しており、(基準値に対する)評価として問題ありと考えます。(多品種小ロットの受注が増えている)従って、2012年度の実績を基準として2013年度からより実状に即した内容に改め環境活動を推進する事としました。

取組項目	活動計画	実績と評価				
【電力使用量の削減】 原単位(kwh/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ライン稼働に不要な設備の電源ON/OFF確認 事務所及び工場の不要照明の消灯 ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ等関係設備のエｺ運転 毎月の電力使用量を把握・監視 冷房設定温度確認とｸｰﾙﾋﾞｽﾞ運動 暖房設定温度確認とｳｰﾋﾞｽﾞ運動 	(実績)	基準値1%削減			
			目標	実績	削減率	評価
		環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2316	2638	13.90% (増加)	×
		(評価)	新塗装ラインの稼働により電力消費が大幅に増加している。受注状況により新塗装ラインの稼働時間を変動させることにより効率の良い生産対応を目指す。目標設定時と状況が大きく変化しているので次年度以降目標値の見直し必要			次期取組 重要度 ○(重要)
【ガス使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 毎月のガス使用量を把握・監視 	(実績)	基準値1%削減			
			目標	実績	削減率	評価
		環境効率指標 m³/生産高(百万円)	203	125	38.42%	◎
		(評価)	新塗装ラインの稼働により売上が増加し環境効率指標が大きく改善している。新ラインはガスを使用する設備がなく消費が伸びていないのも要因。電力と同様に効率の良いライン稼働を行い消費抑制を図る			次期取組 重要度 ○(重要)
【水道使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 節水意識の高揚 毎月の水道使用量を把握・監視 	(実績)	基準値1%削減			
			目標	実績	削減率	評価
		環境効率指標 m³/生産高(百万円)	6.11	6.22	1.80% (増加)	×
		(評価)	本社工場では従来水を使用する設備がなかったが3月下旬に不良対策を目的としたミスト噴霧装置を導入したため今後注視していく			次期取組 重要度 △(維持)
【産業廃棄物の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による廃棄物排出量削減 廃棄物容量の減容 廃棄物の分別の徹底 廃棄物の省資源化検討 (リサイクル出来る物を発掘) 毎月の廃棄物排出量を把握・監視 (リサイクル出来る物を発掘) 	(実績)	基準値1%削減			
			目標	実績	削減率	評価
		環境効率指標 kg/生産高(百万円)	574	409	28.75%	◎
		(評価)	売上増加に比して産廃排出量が増加していないため指標が大幅に改善している。			次期取組 重要度 △(維持)
【化学物質使用量の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による化学物質使用量削減 作業方法(洗浄・調合)の見直し 毎月の化学物質使用量を把握・監視 	(実績)	基準値1%削減			
			目標	実績	削減率	評価
		環境効率指標 kg/生産高(百万円)	55.94	57.89	3.49% (増加)	×
		(評価)	新塗装ラインの稼働により売り上げが増加しているがそれ以上に物質指標量が増加しており目標未達になっている。新塗装ラインでの不良率削減が重要である。			次期取組 重要度 ○(重要)
【グリーン購入の推進】 購入比率の25%以上を グリーン購入する	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入法適用商品の購入推進 	(実績)	基準値1%削減			
			目標	実績	達成率	評価
		環境効率指標 購入比率(%)	25.0	41.7	166.80%	◎
		(評価)	適用商品の購入意識が定着し目標が達成した			次期取組 重要度 △(維持)

従業員数及び対象化学物質の年間取扱量がPRTR法の届出対象事業所に該当しないが化学物質使用量を把握・監視している

② 瀬戸日の出工場

取組項目	活動計画	実績と評価															
【電力使用量の削減】 原単位(kwh/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ライン稼働に不要な設備の電源ON/OFF確認 事務所及び工場の不要照明の消灯 ソフレッサー等関係設備のエコ運転 毎月の電力使用量を把握・監視 冷房設定温度確認とカービズ運動 暖房設定温度確認とカービズ運動 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kwh/生産高(百万円)</td> <td>2325</td> <td>2205</td> <td>5.16%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>昨年5月に取組んだ排水処理設備の節電対策の効果が出ている。今年3月の新電着ライン立ち上げ及び受注減少による再塗装数量の減少も指標目標を達成の要因となっている</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2325	2205	5.16%	○
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2325	2205	5.16%	○													
【ガス使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ボイラー等関係設備の起動停止時期見直し 毎月のガス使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 m³/生産高(百万円)</td> <td>560</td> <td>563</td> <td>0.53%</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>電力消費と同様に新電着ラインの立ち上げと受注減少(客先内製化)により不良品への再塗装減少による稼働時間短縮が要因となっている</p> <p>次期取組 重要度 ◎(最重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 m³/生産高(百万円)	560	563	0.53%	△
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 m³/生産高(百万円)	560	563	0.53%	△													
【水道使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 前処理設備の見直し 節水意識の高揚 毎月の水道使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 m³/生産高(百万円)</td> <td>18.86</td> <td>21.16</td> <td>11.08% 増加</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>人為的なバルブ閉め忘れ等の発生は頻発しておらず設備使用での物理的な要因が大きい。今年3月の新電着ライン稼働により水道使用量は増加する傾向にあり、前処理水の循環利用による削減を検討する</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 m³/生産高(百万円)	18.86	21.16	11.08% 増加	×
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 m³/生産高(百万円)	18.86	21.16	11.08% 増加	×													
【産業廃棄物の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による廃棄物排出量削減 廃棄物容量の減容 廃棄物の分別の徹底 廃棄物の省資源化検討(リサイクル出来る物を発掘) 毎月の廃棄物排出量を把握・監視 毎月の廃棄物排出量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>327</td> <td>321</td> <td>2.73%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>昨年5月の塗装ブース一部乾式化に伴い廃プラ関係の排出は増加したが汚泥の排出削減が大幅に進んだことが要因</p> <p>次期取組 重要度 △(維持)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	327	321	2.73%	○
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	327	321	2.73%	○													
【化学物質使用量の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による化学物質使用量削減 作業方法(洗浄・調合)の見直し 毎月の化学物質使用量を把握・監視 <p>PRTR法の届出対象事業所に該当する</p>	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>38.16</td> <td>48.04</td> <td>24.62% 増加</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>品質不良への修正再塗装による物質使用量よりも不良削減対策としての塗装機器、設備へのメンテナンス強化により洗浄用シンナーの購入増加が主な要因。今後は洗浄シンナーの使われ方について確認検証していく</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	38.16	48.04	24.62% 増加	×
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	38.16	48.04	24.62% 増加	×													
【グリーン購入の推進】 購入比率の25%以上を グリーン購入する	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入法適用商品の購入推進 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 購入比率(%)</td> <td>25.0</td> <td>41.9</td> <td>167.60%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>適用商品の購入が定着して来た為、目標が達成出来ている</p> <p>次期取組 重要度 △(維持)</p>		目標	実績	達成率	評価	環境効率指標 購入比率(%)	25.0	41.9	167.60%	◎					
	目標	実績	達成率	評価													
環境効率指標 購入比率(%)	25.0	41.9	167.60%	◎													

(2)今年度の重点取組事項への評価と反省

(※評価の基準)
 ○：取組事項の効果が非常に有効
 △：取組事項の効果が有効
 △：取組事項の効果不十分
 ×：取組事項の効果なし

① 本社工場

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 設備稼働条件見直しによる電力削減(昨年度瀬戸日の出工場の水平展開) 負荷状況、製品に適應した設備稼働(無駄な設備稼働をなくす) 電力・ガスのプラン変更による経費削減 	△	電力消費については新塗装ラインの稼働により大幅に増加している。設備的に新ラインで投入できる製品が限定される事と、不良削減が進んでいないのが大きな要因。ガスは既存ラインのみの消費であり売上増加により指標目標を達成している。電気・ガスの料金について値上げと消費増税により増加しているため次年度に重点取組みとする
産業廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 分別の徹底によるリサイクル化(無償引取り)検討(昨年度瀬戸日の出工場の水平展開) 	△	排出量及び引取り頻度の関係から無償引取りは実現せず。他の方策による削減を模索する
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 品質不良削減により再塗装を減らす 新塗装ラインの積極活用により不良削減 	△	新塗装ラインの不良削減が進んでおらず物質使用量が削減できていない。今年3月にミスト噴霧の設備導入後は不良率が減少傾向にあるため経過を注視する。既存ラインの不良率は低水準で安定している

② 瀬戸日の出工場

※電力デマンド管理システムの導入により「使用状況の見える化」が可能になりました。

取組項目	次年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 設備稼働条件見直しによる電力削減 ガス使用機器のウォームアップ時期の基準を作成する 塗装の自動化(ロボット化)により不良率の削減を図り無駄なライン稼働を減らす 	○	昨年5月の排水設備稼働条件見直しの効果が見られた。ガス使用機器のウォームアップ時期の基準作りは正式に決められなかったが設備を停止させる際の見直しにより削減ができた。また電着新ラインの稼働と一部製品の密着内製化により修正時のライン稼働短縮ができたのも要因である。塗装の自動化についてはプログラムをティーチング出来る人員が限定されており当初予定に対し未達に終わった
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 電着前処理設備の「ムダ水」発掘活動 水の循環使用への検討 下水(排水)メーター設置検討(水道料金削減) 	△	<ul style="list-style-type: none"> 「ムダ水」の発掘及び循環使用については設備の内容を検討し施策の立案までは完了している。改修費用対効果の検証を行い次年度への対応を検討する。排水メーターの導入については投資費用を回収するのに長期間を要するため検討を継続とする
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 取引先との打合せにより廃棄物の削減を図る(梱包資材のリサイクル使用) 取引先にラップ材梱包での搬入を極力削減する様に呼びかける(繰り返し使用出来る梱包紐の推奨) 分別の徹底によりリサイクル出来るものを発掘する 	△	取引先から入荷する素地で重量の重い品物が増加しラップ材で梱包して入荷するケースが増え排出が増加している。また納品した製品の梱包袋が返却され廃棄する量が増えているため、今後納品済製品の梱包袋の処分について打合せを進める。リサイクル可能品の発掘について処理業者と交渉を継続する
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 塗装の自動化(ロボット化)により不良率の削減を図り再塗装による化学物質の使用量を減らす 	△	塗装不良に対する再塗装数自体は受注状況の変化や新電着ラインの稼働により減少傾向にあるが不良削減への対策として塗装機器及び設備メンテナンスの強化を行っているため洗浄シンナーの購入量が増加しておりそのまま化学物質使用量の増加に繋がっている

(3) 次年度(2014年度)の活動計画

次年度は今年度の活動をベースに継続して改善を進めて行きます

下記に今回の取組結果の反省を基に次年度の重点取組事項をまとめました

① 本社工場

取組項目	次年度の重点取組事項
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・新塗装ラインの塗装不良削減活動 ・負荷状況・製品に適応した設備稼働(無駄な設備稼働をなくす) ・電力・ガスのプラン変更による経費削減
産業廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底によるリサイクル化(無償引取り)検討 (日の出工場に集約収集してリサイクル引取り)
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・品質不良削減により再塗装を減らす ・塗料在庫の削減及び購入量の見直し

② 瀬戸日の出工場

取組項目	次年度の重点取組事項
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・日の出第2工場の有効活用による既存設備の稼働時間効率化 ・ガス使用設備のウォームアップ時期の基準を作成する ・塗装の自動化(ロボット化)により不良率の削減を図り無駄なライン稼働を減らす →ロボットティーチング要員の育成と業務に専念できる体制づくり
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・水の循環使用への検討(費用対効果の検証と導入検討)
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先との打合せにより廃棄物の削減を図る(梱包資材のリサイクル使用) ・取引先にラップ材梱包での搬入を極力削減する様に呼びかける(繰り返し使用出来る梱包紐の推奨)→継続 ・分別の徹底によりリサイクル出来るものを発掘する 呼びかける(繰り返し使用出来る梱包紐の推奨)→継続
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装の自動化(ロボット化)により不良率の削減を図り再塗装による化学物質の使用量を減らす ・洗浄シンナー購入・使用量削減に向けた対策を検討・実施する

【環境負荷低減に向けた「3本柱」】

- ①「塗装ロボット積極活用」による不良削減
- ②「新工場」「新設備」の有効活用によるムダな稼働の排除
- ③「埋蔵金の発掘」(リサイクル発掘・資源循環利用・経費削減)



経営に寄与する「環境にいいものづくりの推進」
【Q(品質)E(環境)M(経営)が三位一体となった活動】

8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無

(1) 関連法規制等への対応

各環境関連法規制については個別に「順守確認チェック表」を作成し法令等の改正及び順守の確認を行っています。順守状況に不具合があった場合は「是正処置・予防処置報告書」を発行し、処置の実施及び確認をする仕組みを採っています。

法律条例等の名称	当社の対応状況	本社及び本 社工場	瀬戸日の出 工場
水質汚濁防止法	塗料庫(指定施設)での事故(設備破損等による地下への汚染)発生時に届出義務あり	○	○
騒音規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○
振動規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○
廃棄物処理法(愛知県条例)	産業廃棄物の適切な処理保管、マニフェストによる管理を行なう	○	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出(1回/年)	○	○
下水道法(市条例)	瀬戸市下水道条例に基づき排水の処理管理を行ない定期的に報告を行なう	/	○
特定化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)(愛知県条例を含む)	化学物質使用量(第1種指定・特定第1種指定)の把握及び関係当局への報告(1回/年)		○
毒物劇物取締法	指定物の使用状況の把握及び貯蔵状況の確認		○
消防法(名古屋市・瀬戸市火災予防条例)	法に基づき乾燥設備・変電設備・少量危険物貯蔵庫(塗料庫)の点検・報告・届出を行なう	○	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則に定める基準を順守し検査を行ない記録(健康診断・作業環境測定等)を管理する	○	○
グリーン購入法	グリーン購入法適合商品の購入を目標を定め推進する	○	○
環境配慮促進法	事業活動に関する環境情報を外部に開示する	○	○
瀬戸市環境の保全及び創造に関する協定	環境保全計画書に締結した内容に基づき環境法規制を順守する	/	○

順守確認については環境管理責任者が実施致しました。
これ以降は必要に応じ確認を行っており法規制及び条例等への違反事項はありません。

(2) 違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に関する環境関連法規制及び対応状況は上記の通りで全て順守しています。本社及び本社工場は過去3年間、瀬戸日の出工場は設立(2010年10月)以降、関係各機関から違反、告訴等はありませんでした。
2011年11月瀬戸日の出工場の近隣より臭気に関する苦情が寄せられましたが早期に対策を行ないこれ以降苦情はありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2013年5月から2013年4月までの当社(本社、工場、瀬戸日の出工場)の環境活動の結果を管理責任者より報告を受けました。

当社は2012年7月にEa21認証登録(全社)、12月に瀬戸市の「環境にやさしい事業所」認定(瀬戸日の出工場)を受けて以降、社員の環境意識の高まりにより活動が浸透して来ました。

本社工場は新塗装ラインの稼働により遊技機部品の受注を実現し売上増加に貢献しています。また既存ラインとの平行生産により受注状況に対応できる体制となりました。

瀬戸日の出工場は5月に塗装ブースの改造と塗装ロボット増設、今年3月にカラー電着塗装ラインの新設により工程削減を実現し環境負荷、不良率、収益性の改善に大きく貢献しています。しかしながら、水使用量と化学物質使用量については目標未達の要因として設備的、構造的な要因が大きいため次年度はこの二つの項目について重点取組みを致します。

また、当社は平成24年度補正予算のものづくり補助事業に採択され、新工場の設立・稼働という大きな転機を迎えています。新工場は粉体と溶剤の塗装設備を併設しているため、顧客のニーズに対する幅広い対応が可能となりました。これにより受注拡大が望める状況にあります。今までの経験と知識を基に更にQ(品質)E(環境)M(経営)の三位一体となった改善を加速させ「環境に優しいものづくり」を追求してまいります。